

# Book Review



## デンチャースペースの回復できめる 総義歯のかたち

本郷英彰 著



Reviewer

阿部伸一 Shinichi Abe  
(東京歯科大学解剖学講座教授)

A4判, 172頁  
定価 12,600円  
(本体 12,000円+税 5%)  
医歯薬出版刊



「匠の技」という言葉がある。匠とは何らかの優れた技術をもつ人を指す言葉で、歯科界では総義歯の名人といわれる歯科医師に対してよく使われる。

これまで多くの場面で、この「匠」と称される歯科医師に会ってきた。それは学会、講演会における打ち合わせ、共同で著書を執筆する際、雑誌における座談会の場、などである。いつも感じていたことは、これら著名な先生方こそ「基本」に忠実であり、常に「基本」を追及しているということである。

その「基本」の1つに「機能解剖学」がある。さまざまな総義歯作製過程の工夫、材料の工夫の違いを解説した書籍は散見されるが、その過程を機能解剖学とうまくリンクさせたものは少ない。そのようななか、総義歯治療に必要な機能解剖学を詳細に、丁寧に、そして徹底的に解説した本書「デンチャースペースの回復できめる 総義歯のかたち」が、本郷英彰氏によって刊行された。

本書の前半 Part 1 では、総義歯が

「生体と調和&機能する」とはどういうことなのかについて、これまでの総義歯治療の問題点を挙げながら解説が進んでいく。一例を挙げると、「本来、義歯で満たされるべきデンチャースペースが“動的平衡”により周囲軟組織に“占領”された場合」という読者にとってわかりやすい本郷氏独自の表現を使って問題点を投げかけ、患者個々の有歯顎時のニュートラルゾーンをイメージできる臨床解剖学的知識の重要性を説いている。

Part 2 からは、総義歯の細部にわたって、周囲の解剖学的構造に関し解説が進められていく。ティッシュコンディショナーを用いた総義歯周囲の解剖学的な解説は、周囲粘膜との距離感、ボリュームなどが体感でき、これまでの総義歯の書籍にはない充実感を得られる。さらに模型での解説、イラストなどを併用していることが読者にとって非常にわかりやすい構成となっている。

「義歯はどのように生体と調和する

のであろう？」という問いは、歯科医師であれば誰でも自分に投げかけたことのあるものであろう。それは「きちんとした機能をも含んだ口腔解剖学の知識を自分のものとし、患者の粘膜下の組織が透けて見え、動きを捉え、全体の機能をイメージできることである」と本書は教えてくれる。

機能解剖学とは、単なる筋などの名称を覚える解剖学とは異なり、それぞれの組織が場面、場面でその姿を変えることを正確な知識で説明できることが到達目標となる。その場面とは、頭頸部が担う咀嚼、嚥下、会話、コミュニケーション（表現）などである。同じ表情筋の1つでも「笑うとき」「泣くとき」「噛むとき」「飲み込むとき」では役割が異なるのである。

それら多くの場面において、その中心に総義歯は存在する。患者個々の機能回復に必要な可動粘膜、非可動粘膜のさまざまな動きを総義歯形態と調和させるため、本書は、読者の大切な座右の書となるであろう。